

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194700282		
法人名	社会福祉法人 あおい福祉会		
事業所名	グループホーム しらかばおとふけ (1F あい)		
所在地	北海道河東郡音更町新通7丁目3番地19		
自己評価作成日	令和元年10月31日	評価結果市町村受理日	令和2年2月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0194700282-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0194700282-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号
訪問調査日	令和元年11月26日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

リハビリとレクリエーションを兼ね廊下歩行・立ち上がり等の日常的機能訓練後、シールを貼りながらお花の図柄ができるよう行っている。  
 数名による貼絵と全員による行事に向け大きな作品を作成したり、個別には、塗り絵を書いたり、なるべく全員が携われるよう努めている。  
 天気の良い日には、なるべく玄関先で外気浴を行い、歌・ゲームを行い気分転換の機会を作るよう努めている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は音更川流域の自然林に囲まれた静かな場所にあり環境に恵まれている。町内会の祭りに参加したり、事業所行事には地域住民が参加、ボランティアが訪問するなど地域との相互交流が行われている。運営推進会議では、具体的な問題を投げかけ運営改善など活発な議論を引き出して運営に反映させている。利用者一人ひとりのその日の希望に沿って、日光浴や散歩、買い物等で気分転換を図り、戸外に出かけられるように支援している。家族の協力を得ながら、買い物や外食、ドライブなどの支援をしている。管理者は職員育成に努め、内部研修や法人内研修、外部研修の場で、感染症予防や介護技術講習での食事、入浴、口腔ケアの介助方法等を習得する機会を作っている。また、職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、資格取得に向けた必要な研修が受けられケアの質の向上に繋げる体制づくりに法人全体で取り組んでいる。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	○			○	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に会社・事業所理念を見やすいところに掲示し、共有している。 申し送り時、ミーティングで確認している。 年間の目標を掲げて取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義や事業所の役割を考えた事業所理念を事務所内に掲示し、申し送り時やミーティングで確認し職員で共有して実践につなげている。	事業所理念は、地域や利用者のニーズ、事業所の状況の変化にあわせ、職員で話し合い、現状に則した見直しを期待する。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事や地域活動に参加できるように努めている。 夏休みこどもラジオ体操の参加し認定こども園、運動会総練習見学	町内会に加入し、町内会活動や行事に参加している。認定こども園や短期大学生、ボランティアが来訪し、行事に参加したりして交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会、老人会に参加した際、認知症の症状や受診の大切さなどを老人会会長へ説明している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組み、ヒヤリ・事故報告し、困難事例等について話し合い、貴重な意見を頂いている。	地域包括支援センター職員、町内会会長、民生委員、地域住民、家族等が参加して、年6回開催している。運営状況の報告や事故報告等を報告し、意見や助言を得てサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	空き状況の問い合わせやサービス困難事例に対する相談などに応じてもらっている。	地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加しているほか、管理者は町役場に出向き、新しい介護情報入手や指導、事業所の空き状況の報告、入居相談を受けるなど、協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束しないケアを目標に掲げ行っている。 施錠はしていないが、プザー使用している。 社内・社外研修に参加し職員会議等で発表し他職員にも伝えている。	身体拘束廃止委員会を定期的に開催し、具体的なケースを取り上げて身体拘束の内容を理解し、拘束の無いケアに努めている。職員を外部研修会へ積極的に参加させて内部研修会でも伝達している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	目標を作り虐待防止に努めている。 チェックリストを定期的に行い、注意喚起を行う。 虐待が見過ごされる事のないように職員同士注意している。			

グループホーム しらかばおとふけ (1F あい)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内・社外研修に参加し学ぶ機会を持ち、支援できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間をかけ、理解を図れるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部への連絡先も掲示している。 ご家族の面会時等、意見・苦情を聞き運営に反映できるよう心掛けている。 話やすい状況作りを心がけている。	家族等の面会時に積極的に言葉かけを行い、話しやすい雰囲気を作っている。また、家族に対して、アンケートを実施し、意見や要望を伺いサービスの向上に繋いでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で機会を設けている。 職員の不満、意見を聞き改善できるよう会社へ提案する	管理者は、職員が率直に意見等を言いやすい雰囲気を大切に、職員から出された提案も運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	普段から意見を聞く機会を申し送り時に設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や自己研修に重要性を伝え、研修への全員参加を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互研修として交流する機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話し合い、聞き取りなど多くの情報を得られる努力をしている。ご家族からの聞き取りや要望も伺っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	時間をかけての聞き取りを行い、聞き役に徹する努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	多くの情報を得る時間を持ち、病院や支援センターの職員の意見も参考にし、ご家族と向き合い話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の状況にあった作業を一緒に行い出来ることを一緒に行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何事もまず協力していただけるように働きかけをし、本人を交え話し合いながら解決している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の訪問を継続していただけるように声かけをしている。 焼肉交流会で馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している	焼肉交流会を開催して馴染みの関係が継続出来るように支援し、これまでの友人・知人との関係や馴染みの場所にも行けるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションなどで利用者同士のコミュニケーションをとり、一人一人が孤立しないよう利用者の状況を把握しながら職員仲介実践している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があればいつでも受け入れることを伝えている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らし中でご本人の希望や意向を把握し、意向に近づけるように努力し実施している。できないときは、ご家族に相談ケアプランにも反映している	日々の関わりの中で出来るだけ声かけをして、思いや意向を把握するように努めている。また、希望等を汲み取ったり、家族来訪時や電話にて得た情報を参考にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者全員の以前の生活環境など、個人ファイルに記載されているものを把握し、共有しながら実施している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子、心身状態の変化など記録し共有しながら把握するように実施している。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人一人がより良く快適な生活を過ごせるように、ご本人に合ったプランをご本人、ご家族、関係者と検討し計画を作成するよう実施している。変化が見られたときは、随時話し合いを行う。	利用者や家族の希望を聴き、担当する職員の気づき等も参考に、一人ひとりの状態や思いを大切に、暮らしに反映できる介護計画が計画作成担当者により作成されている。また、入院や体調不良時には、都度見直しを実施している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人の様子、日々の中での変化など細かく個別に記録し情報を共有しながら実施している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、家族状況、また時々の要望に応じて事業所の多機能性を活かし包括センター・病院に相談しながら支援するよう実施している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人一人の意向に合わせて必要性に応じて各機関と協力をしながら支援できるよう実施している。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	常勤の看護師対応にて定期的にかかりつけ病院に受診し、医師の指示に基づき健康管理を行っている。提携外の病院に関しては、近況報告をご家族に伝える。	入居前からのかかりつけ医への受診を、家族と協力しながら支援している。協力医、歯科医の往診が行われ利用者の健康面をサポートしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師を確保し健康管理を行っている。					
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の方が不安にならないように、早期退院に向けて病院側と相談し情報を交換している。					
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における指針を定め、ご家族と話し合いながら方針を共有している。終末期に向け、早い段階でご家族に相談を持ち掛け話し合う。終末期に向け、早い段階でご家族に相談を持ち掛け話し合う。	重度化と終末期の支援については指針が策定されており、利用者が重度化した場合や終末期の対応に備えて、十分に説明している他、入居後も利用者や家族等の状況に変化があった場合には、随時、話し合いを行っている。				
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習・社内研修等を受け、マニュアルを備えて迅速に対応できるようにしている。					
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員、利用者共に消防所の協力を得て定期的に防災訓練を行っている。地域の方とも推進会議等で協力が得られるよう働きかけ、年2回避難訓練の他、水害避難の実施	災害訓練は年2回以上消防署の指導助言を受けて実施。緊急時に全ての職員が迅速に対応できるように消防署の協力を得ながら地域の人々も参加して行っている。				
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>								
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報に関する基本指針に基づき、常に尊敬の気持ちを持ち、声かけし対応しています。声かけ・話し方について職員間でチェックをしている。	尊厳について職員間で話し合う機会を設けて、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねる言葉かけがないように職員間に周知している。				
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	時間をかけ、ゆったりとした会話の中で、思い・希望を引き出せる雰囲気作りを心がけている。					
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の方の体調や都合を優先し、ゆったりとした時間を持ち生活を支援している。					
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	さりげなく服を準備し、清潔感ある身嗜みを支援している。行事の時などお化粧し、おしゃれを楽しんでもらう。					

グループホーム しらかばおとふけ (1F あい)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備の出来る方には野菜を切って頂いたり、片付けの出来る方は職員と一緒に片付けをして頂いています。お粥、刻み、ミキサー食など、その人に合わせて食事の工夫をしています。	職員と利用者が一緒に和やかに準備し食事や片付けなどを行っている。菜園から収穫したミニトマト、ズッキーニ等を使った食事を提供し利用者と食事を楽しんでいる。また、家族同行で外食を楽しむ機会を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が考えたメニュー1日1500cal、水分1000mlを目標に一人ひとり無理せず提供。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は洗面台へ誘導し、義歯洗浄、歯磨き、うがいを実施している。 出来ない方は、定期に協力歯科による口腔ケアの実施。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に記入し一人ひとりのパターンをおおむね把握し、それに合わせてトイレで排泄を行えるよう支援する。変化おその時の状況に合わせて、話し合いながら状況の把握に努める	一人ひとりの排泄パターンを把握して、トイレでの自立排泄に向けた支援を行っている。リハビリパンツやパット等、状態に合わせた排泄用品で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時、牛乳を提供。 適度な運動と主治医による便秘薬でのコントロールを実施		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声かけをし、要望の時間で入浴できるように支援している。入浴したくないときは、無理強いを行わず違う日に入浴実施しているが時間に追われてしまい楽しむ入浴からは少しかけ離れてしまっている	利用者の体調や希望にあわせて入浴できるように取り組んでいる。入りたくない人は時間をずらしたり、曜日を変更するなどの工夫をしている。リフトを導入して職員の負担軽減を図っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の明るさ、空調を留意したり、個々の対応をしながら支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を読み理解するよう努めている。医師の処方通りに一人一人の服用法に合わせて氏名・日を読み上げ毎回職員が服薬の確認をしている。処方薬に変更が、あった場合はその都度記録し、Drに報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事のお手伝いをして下さったり、天気の良い日にはお散歩をしたり、トランプ遊びをしたりして楽しめるようにしています。 仕事も一緒に行っている。		

グループホーム しらかばおとふけ (1F あい)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い時には周辺の散歩をしたり、散歩出来ない方は日光浴をしています。また、外に出られる時には入居者さん一人一人の事を考え、自宅まで出かけられたり、外へ出て気分転換できるようにしています。	利用者の要望により外出支援を行っている。玄関先広場で「日光浴」をしたり、買い物等で戸外に出かけられるように支援している。家族の協力を得ながら、買い物や外食、ドライブなどの支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の自己管理ができる方には持って頂いています。週に1度パン屋、月に一度受診時売店での買い物の見守り支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話をかけたたり手紙を出すなどの支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間での明るさ・温度等には配慮している。季節感のある物、行事写真等掲示している。一人ひとりに合った音の大きさ・明るさ等あるため、その時々で対応している。	共用空間は清潔感が漂い広く、調理室や事務室からは利用者の動きが観察し易い配置になっている。廊下にはスナップ写真や利用者の作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングやソファ、畳のスペースもあり、廊下にもベンチを置いて好きな場所で過ごせるようにしている。入居者さん同士で会話しながら洗濯たみなどをされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を居室に置いている。利用者の希望に合った、ご家族の写真、作品等飾る。	染みの家具や仏壇等が持ち込まれ、家族等の写真等も飾られていて、利用者が安心できる空間作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者さんの出来ること、やりたい気持ちを尊重して頂くよう心がけ見守り、ケガや他入居者さんに不快感がないよう配慮している。		